

(31) サツマイモ(カンショ)

主要病害虫別防除方法

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
黒斑病 (<i>Ceratocystis</i>)	<p>①種いもや苗を温湯に浸す。 温度 浸漬時間 種いも 47～48℃ 40分 苗 47～48℃ 15分</p> <p>②本病に強い品種を栽培する。 強：農林1号</p> <p>③無病の種いもを用い、苗床の土は無病地の新土を使用する。</p> <p>④つるの切り取りはできるだけ高切りとし、土壌に近いつるは避ける。</p> <p>⑤収穫時に選別を行い、罹病いもは貯蔵しない。</p> <p>⑥本貯蔵前にキュアリング処理を行う。温度33℃前後、湿度90～95%で約4日間保つ。</p> <p>⑦マメ科以外の作物で輪作をする。</p> <p>【参考事項】 苗は束ねて基部を温湯に浸す。 抵抗性弱：ベニアズマ 品種間差異は、ハリガネムシの嗜好性と関係が深いといわれている。 保菌種いも及び土壌中に残存した被害いも、被害茎などが伝染源となる。 消毒前に貯蔵穴の土を薄く削り取る。 ハリガネムシ、コガネムシ類の幼虫や野ネズミの食痕から感染し、発病することが多い。 貯蔵庫はホルマリン100倍液で消毒し、数時間密閉し、殺菌効果を高めるようにする。</p>	<p>①種いもの消毒を行う。 (例) チオファネートメチル水和剤（トップジンM水和剤）</p> <p>②苗の消毒を行う。 (例) チウラム・ベノミル水和剤（ベンレートT水和剤20） チオファネートメチル水和剤（トップジンM水和剤） ベノミル水和剤（ベンレート水和剤）</p>
黒あざ病 (<i>Monilochaetes</i>)	<p>①種いもや苗を温湯に浸す。 温度 浸漬時間 種いも 47～48℃ 40分 苗 47～48℃ 15分</p> <p>②無病の種いもを用いる。</p> <p>③排水良好な畑を選び、高畝とする。</p> <p>④アルカリ性肥料を過用しない。</p> <p>【参考事項】 排水不良地や、土壌がアルカリ性のとき発生しやすい。 伝染源は種いもが主である。</p>	登録農薬はない。
つる割病 (<i>Fusarium</i>)	<p>①種いもや苗を温湯に浸す。 温度 浸漬時間 種いも 47～48℃ 40分 苗 47～48℃ 15分</p> <p>②無病の種いもを用いる。</p> <p>③土壌湿度に注意し、活着を良くする。</p> <p>④他の作物との輪作を行う。</p> <p>【参考事項】 抵抗性弱：ベニコマチ 保菌種いもを通じて苗伝染する。 農薬による苗消毒では、苗の基部を切り戻してから浸漬する。</p>	<p>①植付け前に土壌消毒を行う（土壌病害虫の防除法の項参照）。 (例) クロルピクリンくん蒸剤（クロールピクリンなど）</p> <p>②苗の消毒を行う。 (例) チウラム・ベノミル水和剤（ベンレートT水和剤20） ベノミル水和剤（ベンレート水和剤）</p>
基腐病 (<i>Diaporthe destruens</i>)	<p>①発病は場から種いもを採取せず、無病の種いもを用いる。</p> <p>②排水良好な畑を選び、高畝とする。</p> <p>③苗は、地際から5cm以上離れた位置から採取し、ハサミはこまめに消毒する。</p> <p>④病気が発生したほ場は、輪作をするか作付けをしない。</p> <p>⑤収穫後は、速やかに残渣をすき込み、発病株等はほ場外に持ち出し適切に処分する。</p> <p>【参考事項】 排水不良の場所で発生が多くなるため、額縁明きよ等で排水をよくする。 土壌消毒を行う際は、残渣の中までは殺菌できないため、残渣は細かくすき込み分解を促す。</p>	<p>①植付け前に土壌消毒を行う（土壌病害虫の防除法の項参照）。 (例) ダゾメット粉粒剤（バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤）</p> <p>②植付け前に全面土壌処理混和を行う。 (例) フルアジナム水和剤（フロンサイドSC） トリフロキシストロビン水和剤（フリントフロアブル25）</p> <p>③苗の消毒を行う。 (例) チウラム・ベノミル水和剤（ベンレートT水和剤20） ベノミル水和剤（ベンレート水和剤）</p> <p>④発生時期または発生初期に農薬を散布する。 (例) トリフルミゾール水和剤（トリフミン水和剤） アゾキシストロビン水和剤（アミスター20フロアブル） 銅水和剤（クプロシールド）</p>

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
コガネムシ類	①必要以上に有機物を施用しない。 ②マルチ栽培を行う。	①植付け前に土壌混和する。 (例) クロチアニジン粒剤 (ダントツ粒剤) テフルトリン粒剤 (フォース粒剤) (コガネムシ類幼虫)
	【参考事項】 アカビロウドコガネ、ヒメコガネ、ドウガネブイブイ、アオドウガネなどの幼虫が、いもを食害する。	
イモキバガ (イモコガ)		①発生初期に農薬を散布する。 (例) ペルメトリン乳剤 (アディオオン乳剤) プロフラニリド水和剤 (プロフレアSC) MEP乳剤 (スミチオン乳剤)
	【参考事項】 苗床末期と夏から秋にかけて発生が多い。 幼虫は葉の裏面を内側に巻くか、隣接葉をつづり合わせこの中に潜み、葉を食害する。	
エビガラズメ		①発生初期に農薬を散布する。 (例) フェンバレート・マラソン水和剤 (ハクサップ水和剤) プロフラニリド水和剤 (プロフレアSC)
	【参考事項】 幼虫が夜間に葉を食害する。 8月の発生が多い。 摂食量はナカジロシタバの約8倍である。農薬散布は夕方がいよい。	
ナカジロシタバ		①発生初期に農薬を散布する。 (例) インドキサカルブ水和剤 (トルネードエースDF) ルフェスロン乳剤 (マッチ乳剤) プロフラニリド水和剤 (プロフレアSC)
	【参考事項】 幼虫が葉を食害する。 苗床期と9月の発生が多い。	
ハスモンヨトウ		①発生初期に農薬を散布する。 (例) インドキサカルブ水和剤 (トルネードエースDF) エマメクチン安息香酸塩乳剤 (アフファーム乳剤) ルフェスロン乳剤 (マッチ乳剤) プロフラニリド水和剤 (プロフレアSC)
	【参考事項】 被害は、春から夏は比較的少なく、9月以降に多くなる。ナカジロシタバと混発する場合が多い。	
センチュウ類	①常発地では、連作を避け抵抗性品種を選んで栽培する。	①植付け前に土壌に処理する。 (例) クロルピクリンくん蒸剤 (クロールピクリンなど) ダゾメット粉粒剤 (バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤) (ネコブセンチュウ) ②植付前に粒剤を全面土壌混和する。 (例) カズサホスマイクロカプセル剤 (ラグビーMC粒剤) (ネコブセンチュウ) フルオピラム粒剤 (ネマクリーン粒剤、ビーラム粒剤) (ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ) イミシアホス粒剤 (ネマキック粒剤) (ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ)